

海老江加茂神社秋季祭礼の曳山行事

海老江の曳山行事は、射水市海老江地区にある加茂神社の秋季祭礼（秋分の日）で行われます。氏子町である東町・中町・西町の3基の曳山が、昼は花山（花傘山）、夜は提灯山となって、威勢の良い若衆の掛け声と木遣り唄、賑やかな囃子とともに巡行します。同じく氏子町の浜開では獅子舞が行われます。

祭礼の舞台 海老江

海老江地区は、射水市東部の富山湾沿いに位置する港町です。エビが多く獲れた入江があったことが地名の由来と伝えられます。

海岸付近を東西に走る旧浜往来に沿って集落が形成され、延徳3年（1492）にこの地を旅した冷泉為広の日記に、「エヒエ」の地名が記されています。江戸時代後期には、北前船交易や売薬業によって経済成長を遂げ、明治時代以降は、北洋漁業に転じる住民が増えました。

海老江の曳山

海老江曳山の創始時期は明らかではありません。大宝寺の古文書には、西町が天保12年（1841）頃、中町が天保15年（1844）に曳山を新調したことが記され、東町の王様人形頭部に天保13年（1842）年の墨書銘があるため、江戸時代後期には行われていたと考えられます。

海老江の曳山は、中央に立てた心柱を、ダシ（標幟）と花傘で飾った「花傘山」で、下から順に「地山」「下山」「中山」「上山」で構成します。曳山の形状や提灯山の姿、勇壮で賑やかな曳き方や曳山囃子など、放生津曳山の影響が見られる曳山です。



王様（東町）
前人形（西町）

王様と前人形

王様は、各町の守護神として曳山に乗せる等身大の飾人形です。

前人形は、王様と対になるカラクリ人形です。軽快な囃子に合わせて愛らしい所作を演じます。

西町の前人形「唐猿童子」は、名古屋の人形師玉屋庄兵衛の作であり、北陸地方では珍しい、樋を突き出した本格的なカラクリ人形です。

築山

曳山巡行前日の夜、各町で宵祭りが行われます。公民館を飾り付けて王様と前人形を安置し、供物を供えて祀ります。これを「築山」と呼びます。宵祭りでは、人形に神を迎える入魂式や、築山に奉納するお神楽の演奏などが行われます。



築山（中町公民館）

海老江加茂神社

主祭神として賀茂別雷命を祀っています。宝暦10年（1760）、古くから恵比須を祀る産土社があったこの地に新たに下村加茂神社の分霊が勧請されました。

海老江地区のランドマークである夫婦松や、北前船が運んだ瀬戸内産御影石で作られた石垣・狛犬に加え、多くの船給絵馬なども伝えられています。



海老江加茂神社

東町



ダシ：軍配
王様：三番叟
前人形：唐子遊び

安政4年（1857）に四方町から購入した曳山です。鏡板や欄間の極彩色彫刻、各部に散りばめられた銕金具が目を惹きます。

鯨神輿

海老江加茂神社の神輿は、「鯨神輿」と呼ばれています。この神輿は、江戸時代の嘉永2年（1849）に、海老江の網元清と衛門と船頭の彦兵衛の二人が同じ夢のお告げを受けて海の底に沈んだ大きな鯨を見つけ、その鯨を売った代金の一部で作ったものと伝えられています。

木遣り唄

海老江の曳山は、「唄う」曳山です。長台に乗った若衆が、木遣りを唄うと、他の曳き子が両手を交互に振り上げて合の手を入れます。囃子方は落ち着いた曲を演奏し、全員が一体となって祭りを盛り上げます。

木遣り唄は、漁業や廻船業に従事した船乗りの作業唄であり、明治・大正時代に北海道に出漁した漁師によって伝えられたといわれます。

中町



ダシ：振鼓
王様：狸々
前人形：唐子懸垂回転

鮮やかな朱塗りの高欄や、中山を廻る牡丹極彩色彫刻、鏡板の龍虎、たくさんの唐子が遊ぶ上山の欄間彫刻が見どころです。



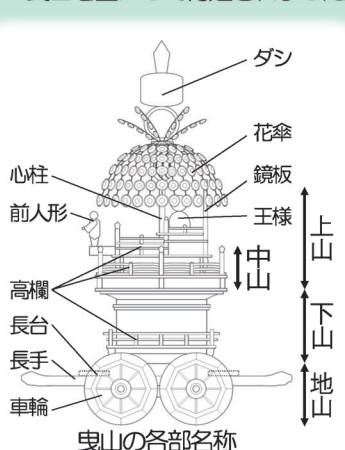
海老江加茂神社の鯨神輿

西町



ダシ：打出の小槌
王様：恵比須
前人形：唐猿童子

見事な欄間彫刻は、井波の初代大島五雲の作と伝わります。現在の放生津常屋町曳山は、この曳山を基にして再建されました。



曳山の各部名称



木遣り唄の練習（東町）



射水市指定有形民俗文化財

海老江加茂神社

秋季祭礼の曳山行事



富山県 射水市



新/旧まちがわ社外「鯨神輿」



海老江まつり資料館



きらら射水観光NAV

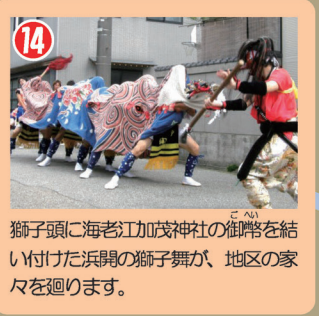
お問い合わせ先 射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 TEL: 0766-51-6637 FAX: 0766-51-6663
〒939-0294 富山県射水市新開発410番地1 E-mail: bunkazai@city.imizu.lg.jp

- 花山巡行路
 - 提灯山巡行路
 - 1 ~ 14** 見どころ
 - 公衆トイレ
 - 駐車場
(駅前駐車場も含みます)
- ・行事の流れは、おおよその実施（通過）時間帯を記したものです。
- ・花山の巡行路には、海老江加茂神社を挟んで東町方面から進む「東回り」と西町方面から進む「西回り」があります。
- ・東回りと西回りの巡行路は毎年入れ替えとなります。
- ・巡行路や時間帯は、天候その他の理由により変更される場合があります。

海老江加茂神社秋季祭礼（曳山巡行）当日の流れ

- #### 花山（東回り順路【】は西回り順路）
- 8:00 海老江加茂神社（曳山お祓い）
 - 9:00 花山出発
 - 9:40【西町西端】
 - 9:50 東町東端
 - 10:10 東町【東明西町西端】 見どころ
 - 10:50 東明東町東端
 - 11:30 海老江コミュニティセンター（花山曳き揃え）
 - 13:50【東明東町東端】
 - 14:00 西町西端
 - 14:10 東明西町西端 見どころ
 - 14:30【東町】 見どころ
 - 14:50【東町東端】
 - 15:30 海老江こども園南【海老江加茂神社】（花山曳き別れ）

- #### 提灯山（東回り順路【】は西回り順路）
- 17:50 海老江こども園西（提灯山出発）
 - 18:10 東町東端【西町西端】
 - 19:00 西町西端【東町東端】
 - 19:30 海老江コミュニティセンター 見どころ（提灯山曳き別れ）
 - 20:20 町内曳き
 - 23:00 町内曳き終了
- #### 海老江加茂神社秋季祭礼
- 7:30 例大祭（海老江加茂神社拜殿）
浜舞獅子舞清祓
 - 8:00 神輿出御
浜舞獅子舞（浜開・浜開新町地内）
 - 14:00 神輿還御・還御祭
 - 20:00 成就祭



- 海老江加茂神社から海老江コミュニティセンターまで 250m 徒歩約 3分
- 海老江加茂神社から東町公民館まで 600m 徒歩約 8分
- 海老江加茂神社から浜開公民館まで 850m 徒歩約 12分



海老江地区に伝わる祭りや、北前船をはじめとする地域の歴史資料を展示しています。東町・中町の曳山格納庫が併設されています。



昭和55年(1980)に廃線となった射水線の駅跡。線路の跡は、ふれあい道路として残されています。



鎌倉時代の創建と伝える古刹です。室町時代の仏画や海老江曳山の起源を伝える文書など、数多くの文化財を保有しています。



左官の名工、竹内源造の手による小堂です。鬼瓦のまわ、欄間や壁面に龍・象・蓮の鏤（こ）で飾っています。



海老江では「旧道」と呼ばれています。沿線には古い建物や神社・地藏堂があり、「とやまの歴史的まちなみ百選」にも選ばれました。



元文2年(1737)の産土社再建時に植えられたと伝わる2本の黒松は、海老江地区のランドマークです。



平成18年にオープンした射水市唯一の海水浴場で、海釣りスポットもあります。新湊マリナーにも近く、夏は多くの人で賑わいます。



加茂神社の横に東町・中町・西町の花山が揃い、集まった曳き子とともに、お祓いと巡行の開始を待ちます。



各町の曳山が、鳥居の前でお祓いを受けます。王様・前人形の顔から覆面が外され、花山の巡行が始まります。



海老江加茂神社を出発した鯨神輿とその一行が、東町方面から順に氏子区域を回ります。



中町から東町までの浜往来は、道幅が狭く曲がり角が連続します。左右への切り返しや角回しが見どころです。



海岸沿いの見通しの良い場所です。護岸道路の上から、並んで巡行する曳山を間近に見ることができます。



カラクリ人形の操演が行われます。高い場所から人形の操作を間近に見ることができます。



「とやまの歴史的まちなみ百選」に選ばれた「浜往来」の街並みの中を、3基の花山が進みます。



町ごとに若衆の木遣り唄が披露されます。カラクリ人形の操演も行われる見どころです。



午前の巡行を終えた曳山が並んで飾られます。3基の花山を細部までゆっくりと見るすることができます。



提灯山に装いをあらためた3基の曳山が集合し、提灯山巡行の出発を待ちます。

